

The 47th
Kanagawa
Art Exhibition
2011

第 47 回
神 奈 川 県
美 術 展

第 47 回 神 奈 川 県 美 術 展

The 47th Kanagawa Art Exhibition 2011

1期展

[平面・立体] 平成23年9月7日(水)～9月18日(日)

2期展

[工芸・書・写真] 平成23年9月21日(水)～10月2日(日)

会場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

平成23年10月5日(水)～16日(日)

休館日：10月11日(火)、10月12日(水)

会場

厚木市文化会館展示室

主 催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール(指定管理者：(公財)神奈川芸術文化財団)

神奈川県

共 催

(公財)厚木市文化振興財団

協 贊

(財)はまぎん産業文化振興財団

(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会

(株)ニコン

後 援

神奈川新聞社／NHK横浜放送局／tvk(テレビ神奈川)

FMTヨコハマ

ごあいさつ



芸術の秋を迎える今年、多くの皆様から意欲あふれる作品をお寄せ頂き、神奈川の芸術文化の力を結集した神奈川県美術展を開催できることを、主催者の一人としてたいへん嬉しく思います。

今年で第47回を迎えるこの美術展は、芸術家を志して日々研さんを積まれている方はもちろん、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる県内最大規模の公募による総合美術展として親しまれています。

またここでの入賞を機に、これまで多くの方々が全国、あるいは世界へと羽ばたいていかれた歴史を持つ、全国に誇れる美術展です。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて1,542点もの応募作品の中から、厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が展示されています。ご来場の皆様方には、その高い芸術性、豊かな感性を十分に味わっていただけるものと思います。

この3月11日に発生しました東日本大震災から半年が過ぎようとしておりますが、日本中が心をあわせ、復興に向けて全力で取り組む中、文化芸術も大きな役割を果たしています。アートは、時に言葉よりも雄弁です。傷ついた心を癒し、復興に向けて力強く歩んでいくための勇気と活力を与えてくれます。

この美術展においても一つひとつの作品が、まるで強い磁力のように人々の心を引きつけ、輝かせ、さらなる勇気と元気の源となることを期待しています。

関係の皆様方におかれましては、今後とも、美術を通して文化芸術の振興にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、このたびご出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に改めて深い敬意を表しますとともに、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

平成23年9月7日

神奈川県知事 黒岩 祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第47回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に890人、1,542点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、363人、413点の作品が選ばれました。今年も、多くの方にご応募いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生をつくりあげていく大切な時間でもあると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人はまぎん産業文化振興財団様、学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成23年9月7日

神奈川県美術展委員会委員長 酒井 忠康

| 1期展
| 平面立体

受賞作品目録

平面立体

大賞	古井 彩夏	東京都	Continual zone	立体
準大賞	熊倉 涼子	相模原市	しんゆう	平面
特選	谷口 嘉	東京都	untitled	立体
特選	平出 南	秦野市	さや野ゆく	平面
奨励賞	球田 隆男	茅ヶ崎市	群盲	立体
県立近代美術館賞	山脇 勇大	川崎市	Preparation	平面
美術奨学会記念賞	長谷川 大	藤沢市	視界のなかのうち - ひかりのにわ -	平面
はまぎん財団賞	小野島夏子	横浜市	大地の答え	平面
県議会議長賞	金子健一郎	鎌倉市	空気中に見える聲音	平面

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた (財)神奈川県美術奨学会を記念して創設された賞です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

河村 誠	数字のある静物画
木村 真彦	'11 海よ、荒ぶるな I
安丸 由子	海への道
渡辺 忠義	ダンスインザダーク
森川 信子	残像あるいは浮遊
井口 信	どうかして
阿部 照夫	私の花園2
宮間 夕子	きの光
一ノ木タツミ	未知数
田上 和子	文字の迷宮I
飯村 優介	スイショウスイジン II
安藤 節子	樹(存在)
花井このみ	記者会見
内田 浩正	光と水と影と…
平野 博史	陽光
吉竹 昌子	誕生日
滋田 明	赤い花と魚
戸田 哲雄	潮騒
杉本 美子	チェルノブイリクライシスより休息
若宮 煦子	韻律
清水 航	奏
大石 未生	Sight line 25
横山 俊光	流夏
飯島 洋子	時の過ぎるまま
安田 文夫	LIVE IN CHIGASAKI (Who?)
茂野 生世	Work'11 A
稻葉 明子	Dream of dreams
田口 弘勝	森のコンサート
石黒 純実	吹き抜ける風と共に
澤井 昌平	時間の恐怖
長谷川冬香	舞台
原 いづみ	色のカタチ1,2,3(3枚組)
桑原 理早	Garden
浜田 澄子	IWAKURA SANSUI
葉山 幸恵	水の記憶と気色
石黒 隆宗	Beyond the Silence I

※掲載は出品者番号順です。

定行 美希

定行 美希	Direct Rays
藤井 唯里	生まれた日 — 祈り —
梶山 文伸	森と水
関 迪子	「コンポジション」
秋山 泰宏	junk woods soul (3枚組)
美濃 寿則	風景
井上 洋介	蓬莱列島
広瀬 弘幸	浜
関水 英司	誕生・芽生え
加藤 哲郎	響
清水 太朗	サンチャゴ
新恵美佐子	花
平林 英一	きりとられた空II -1
亀山 治代	映I
高橋 幸子	ある日 2
西村 有	竹林にて
横山 瑛子	悠久に住む人
中山 智介	天運
澤田 サチ	破戒
岩瀬 哲夫	とおせんぼう
豊崎 恵美	ご褒美につられる
横山 孝司	ツタ
イデヤスヒコ	水のある静物
高田研二郎	DEPENDENT
佐藤岐夜美	幻想舞踏会(2枚組)
柿沼 雄児	風景(1)
樋口 晃亮	obscure
雄鹿 靖二	木1
根本 雅行	cyan 02
赤松 康之	Lost in Clouds
小平 功一	I'm going home
玉置 清明	荒神
近藤 薫	夜
田代 良美	saviour

入選作品目録

立体

友成 哲郎	セイテモセイテモ
堀井 寿乃	apparent hope (2体)
加藤 広子	分針(13個組)
島内 聰士	ROLLING MAN
玉置 りさ	たどる
塩崎 遥	ZOO (環状線)
荒木 美由	TWIN
土橋 葵	PIERCE
齋藤 美沙	my grandmother
菅原 隆彥	Vortex-Form
清水 将大	もっと伸びろ
松井圭太郎	HOUSE of CARDS

平面立体

応募作品は、平面も立体も手際のよい優れたものが多く、そのため選定に苦労した。ただし、とびぬけて淵みのあるパワフルな作品に出あうこともなく、これも選定に苦慮した一因となった。いってみれば粒ぞろい、ちょっと意地悪くいえばドングリの背比べであり、その微差に入落の境があったと御承知おきいただきたい。惜しくも選外となった作品にも、数々のいくしむべきものがあったのだ。以下、受賞作品のうち特に目ぼしいもの幾点かについて、立体と平面に分けてコメントをししておく。

大賞に選ばれた古井彩夏《Continual zone》には、巨大な指輪のような印象がある。つまり、そこにはジュエリー的な感覚がはたらいている。もうすこし具体的にいえば、さしわたし1メートル半ほどの鉄製の円環を二つ——それらは波打っているのだが——たくさんの短い支柱を挟んで水平に重ねたような形状であり、支柱の単調な繰り返しは、あたかもメトロノームのように小刻みなビートを奏でている。しかし、造作の細部に見出される微妙なゆがみや円環のおおらかな波立ちによって、それらのビートは、あたかも鳥たちの羽ばたきのようなリズムへと変じている。他の立体の多くが、思い込みのイメージに流れるなかで、自己主張を抑制した禁欲的な作風が異彩を放ち、それが大賞の決め手となったように思う。

特選の谷口嘉は、白濁したガラスの球体から同質のガラス棒が垂直に伸びている形態を林立させた。モデュールの繰り返しという点で、また《untitled》というタイトルにかんしても、大賞と同様の禁欲性が感じられるが、その不規則的な配置は、乱打のビートとも、ダンスのステップともみえながら、しかし、リズムの域に達するまでには至っていない。ざんねんながら特選に止まったゆえんというべきだろう。奨励賞の球田隆男《群盲》は絵具のチューブで造った小さな一列の群像で、ピータル・ブリューゲルの《盲人の寓話》を想い起こさせる。大小のチューブを人体に見立ててアレンジメントする手際はすばらしく、じつに機智に富んだ小品である。立体にせよ平面にせよ、とかくサイズの大きなものが眼を惹きがちな審査の盲点を突く見事な“大作”であったと評したい。

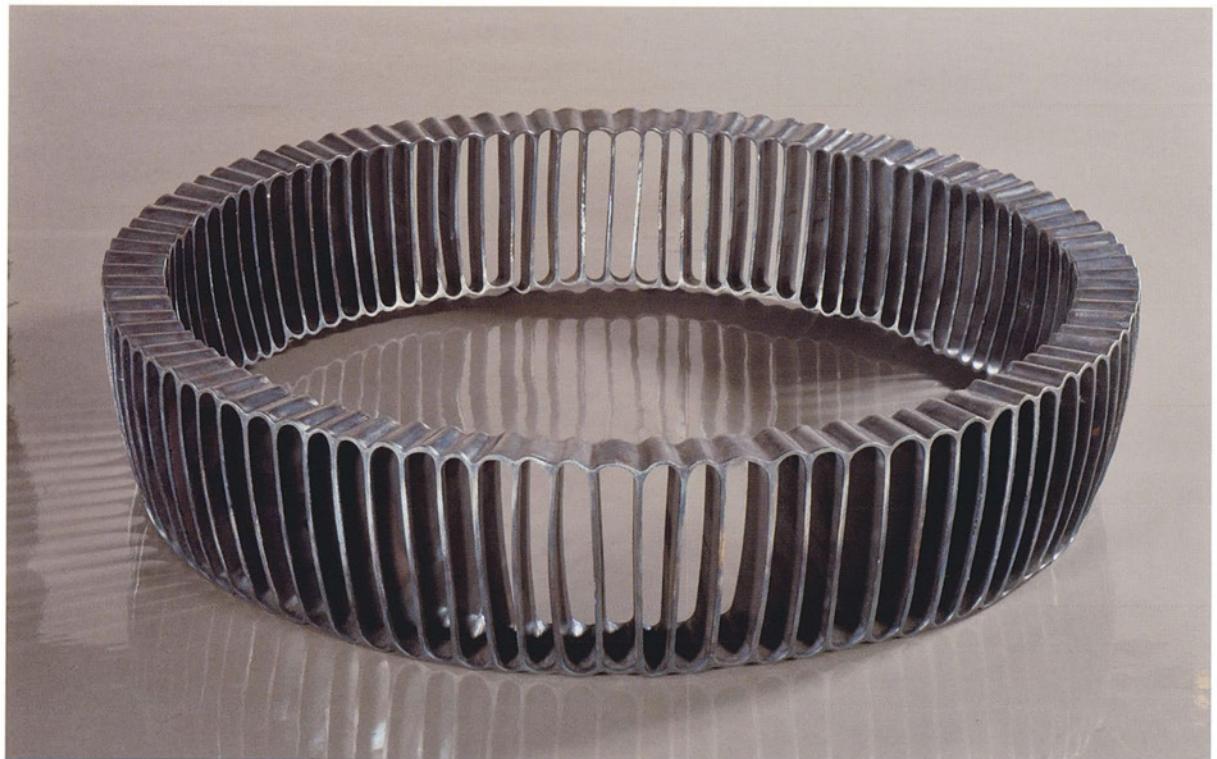
準大賞を獲得した熊倉涼子の油彩《しんゆう》は、すぐれた描画技術と色彩感覚、そして、それらに基づく静かなテー

マ性において注目を引いた。色さまざまの毛糸で編み上げたような小動物のぬいぐるみが、片耳を前に倒し、わずかに首をかしげて、ハイライトをほどこされたつぶらな瞳をこちらに向いているのだが、その愛らしい顔には、ほどけかけた(修理した?)縫い目が斜めに走っている。手芸品を描いた「静物画」が、親友の「肖像画」でもあるという二重性は、この斜めの傷痕と相俟って、作者のこころの淵へと、見る者の想いをいざなわすにはいない。同系色で仕上げられた背景は、いわば倍音の効果によって、画面に統一感のある独自性を与えている。

特選の平出南《さや野ゆく》の画面は、タイトルのとおり、きよらかさに満ちている。野の花々のあいだから見上げる空は、ながれただよう雲たちのグラデーションによって青を際立たせ、あくまでも深く、あくまでも高い。その空へ向けて、クロアゲハが一羽、中天に吸い込まれるようにして飛翔している。もしかすると、これは一種の「自画像」なのかもしれない。風にそよぎ、ひるがえる草の葉や花々のリズムは、旋回する雲の動きとともに、この絵が、さわやかな一一そして、ささやかな——ひとつのラプソディであることを告げている。クロアゲハを見送る蜥蜴や他の蝶たちは、彼女のさえざえとした突然の行動をうらやんでいるかのようだ。岩絵具の奏でる楽曲に小さなこころを浮き立たせながら。

ウォルター・ペイターのいうごとく「あらゆる芸術は絶えず音楽のコンディションに憧れる」のだとすれば、この展覧会は、芸術をめぐるさまざまな思いが響き合うポリフォニックな場であってほしいと思う。市民社会とは個を重んじる社会のことであり、この展覧会は、まさしくそのような市民のための場にほかならないからだ。県展というポリフォニーに、じっくりと耳を傾けていただきたい。楽曲は演奏家(たち)と聴衆のあいだに成り立つものであることを、そして、聴衆のなかには潜在的な演奏家たちも含まれているであろうことをこころに留めて。

(北澤憲昭)



大賞

Continual zone ／ 古井 彩夏

鉄 126 × 126 × 27cm 100kg

[略歴] 1988 東京生まれ

2004 女子美術大学付属高等学校卒業

2011 女子美術大学立体アート学科卒業

現在 女子美術大学大学院立体芸術専攻在学中

[展示歴] 2009 一音会ミュージックスクール音楽祭 北とびあホワイエ展示 ('10 '11)

EXHIBITION INCEPT 吉祥空園 sora 吉祥寺伊勢丹

2010 1517.806km 女子美術大学×沖縄県立芸術大学 交流展 2010-vol.3 銀座ギャラリー女子美

2011 第34回東京五美術大学連合卒業・修了制作展 国立新美術館



準大賞

しんゆう／熊倉 涼子

キャンバス・油彩 162×130.3cm

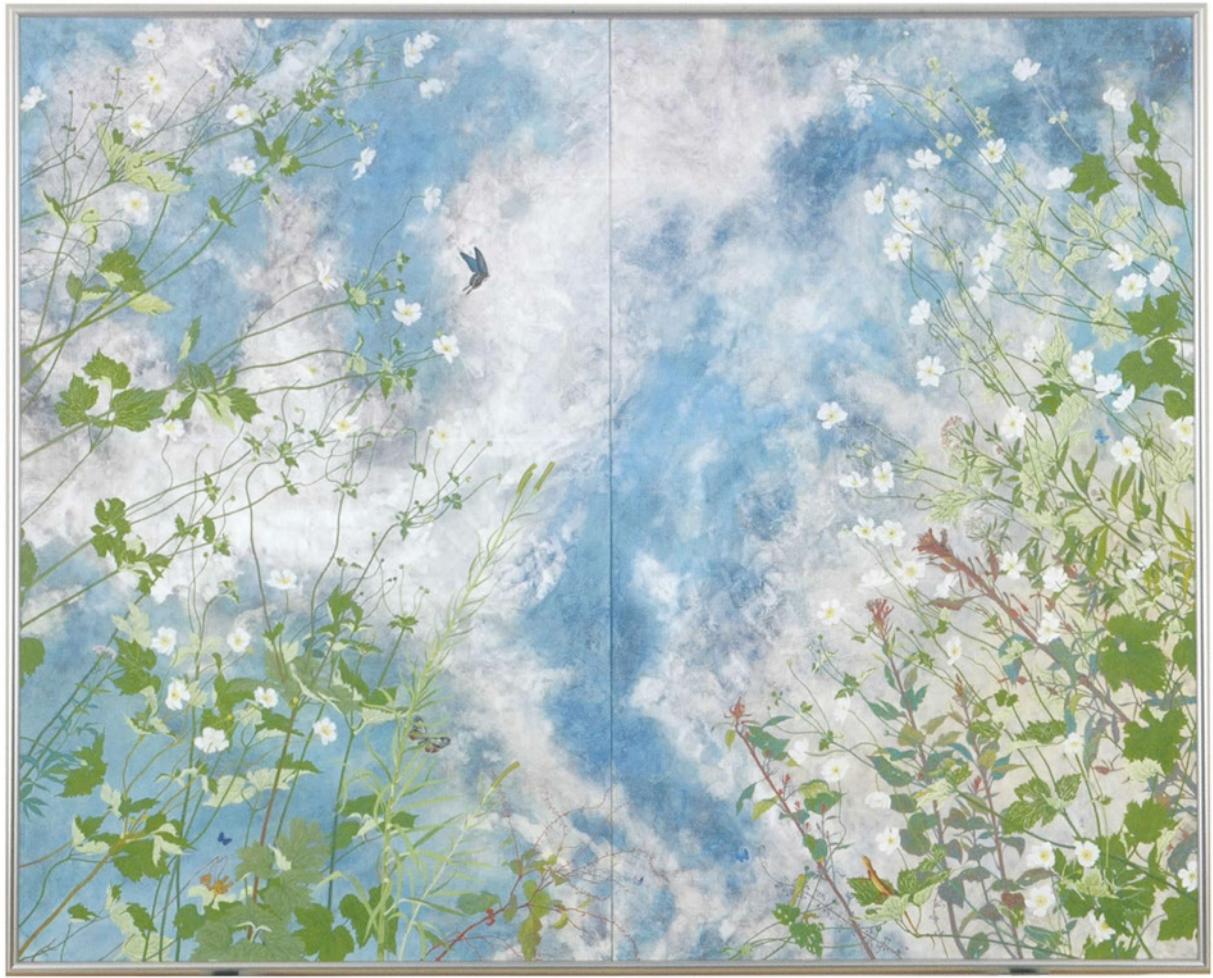
[略歴] 1991年 東京都に生まれる
2011年 多摩美術大学絵画学科油画専攻2年在籍



特選

untitled ／ 谷口 嘉

ガラス 300 × 300 × 110cm 12kg



特選

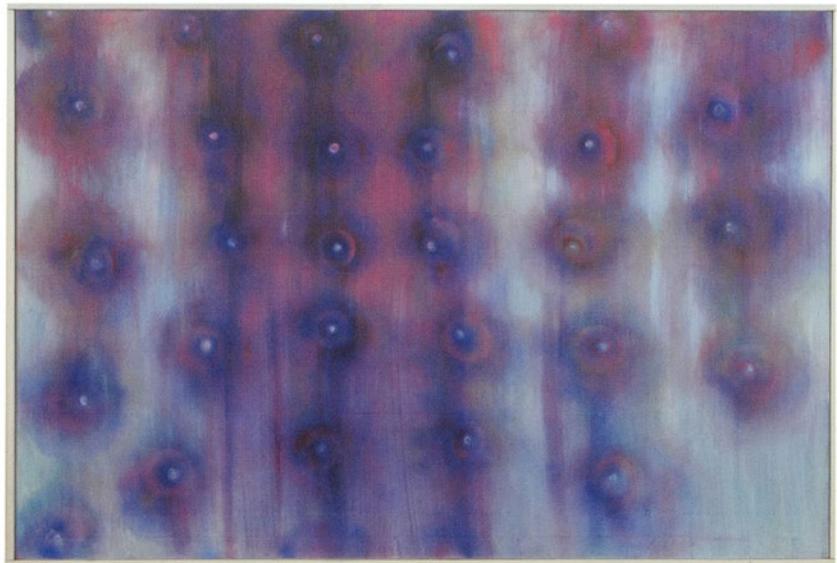
さや野ゆく ／ 平出 南
パネル 麻紙 日本画 182 × 228cm

平面立体



奨励賞

群盲／球田 隆男
鉛 29×26×12cm 0.27kg



県立近代美術館賞

Preparation／山脇 勇大
油彩 130×194cm



美術奨学会記念賞

視界のなかのうち—ひかりのにわー／長谷川 大
シナ合板パネルにアクリル 岩絵具 194×194cm



はまぎん財団賞

大地の答え／小野島夏子
和紙 銀箔 アルミ箔 墨 ジェッソ 162×130cm



県議会議長賞

空気中に見える声／金子健一郎

スキガラス 岩絵具 192×184cm

2期展
工芸・書・写真

受賞作品目録

工芸

大賞	荒 姿寿	相模原市	Endless flow	染織
準大賞	小野 次雄	鎌倉市	乾漆菊型食籠	漆芸
特選	荒木 貞年	静岡県	凌雲	陶
特選	笛川 健一	相模原市	a beige vessel	ガラス
奨励賞	村田 真樹	鎌倉市	月迷宮一Ⅱ	陶
美術奨学会記念賞	内田 望	横浜市	CACHALOT	金工
美術奨学会記念賞	河野 千種	川崎市	雨降る鼓動（3個組）	ガラス
大塚学院賞	菊池 保裕	横須賀市	月光浴・眠り	漆工蒔絵

書

大賞	板越 蒼龍	横浜市	秋興八首内三首	
準大賞	廣畑 筑州	秦野市	龍鳳	
特選	四壁 透	藤沢市	寧生	
特選	堤 智子	横浜市	艶やかな七彩	
奨励賞	下門 芳子	小田原市	月	
美術奨学会記念賞	鯉沼 紫虹	横浜市	鮑恂の詩	
美術奨学会記念賞	島村 秀芳	横須賀市	漢詩	
県文具事務用品団体連合会賞	小畠 翠石	横浜市	源氏	

写真

大賞	長尾 宏	横浜市	猛暑日（3枚組）	
準大賞	三村 信昭	横浜市	私の好きなシャボン玉	
特選	安藤 航	秦野市	生という怪物（3枚組）	
特選	伊藤 千夏	横浜市	はしゃぎすぎい・・・	
特選	大濱 秀太	相模原市	Last Girl On Earth（3枚組）	
奨励賞	佐藤 智彦	横浜市	都市の相貌（3枚組）	
美術奨学会記念賞	竹野 芳美	横浜市	少女像	
美術奨学会記念賞	竜崎 浩	横浜市	伊勢原お米づくり体験（3枚組）	
ニコン賞	栗栖佐保子	横浜市	ひこばえ	

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた（財）神奈川県美術奨学会を記念して創設された賞です。

※大塚学院賞は、（学）大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、（株）ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

平井ひろこ	花開(復興への願いをこめて) 2枚組
今井 信二	鉄絵銅彩花文鉢 炭化窯変壺
望月 汎岳	額(ストレリチア)
小泉 昌浩	昇り龍
中山 愛子	滾滾
山本 裕子	青流
中沢有美(JOY)	ドレス合わせ
今林三恵子	北の森の住民票(6個組)
山㟢 直子	ア・Saan かな?!組平鉢
石川ヤイ子	銀河
土屋 祐康	泥彩象嵌丸文花器
川泉 孝一	天目釉白彩鉢
重田 真希	捲胎漆繪盤「柘榴」
福田 典子	春・麦
小澤真由美	翠
高橋ふく子	黒泥魚文象嵌組皿(6枚組)
田中 ちか	生命の花火(タイル画)
大嶽未来子	半夏生
大原 乾資	麻布 藍の板縞染
清水 忠雄	耳付復活旭光壺
三浦 静香	森閑
村田 淳	Tomorrow(2個組)
塚原 梢	芍薬の花(2枚組)
高野源太郎	染付絵替角組皿(6枚組)
山田 史郎	つながるきっかけ
谷中 耀子	スター・ゲート(star gate)
落合 千翠	IMAGINE-3
高橋 英昭	HAKOBUNE
下山田 寛	空虚(2枚組)
上野 弘子	帰巣(3コ組)
山本貴美子	Frozen Core
川島 陽一	線刻泥彩花器
下平久美子	游暁
鶴岡 弘	低周波の調べ
田中 秀男	黒の魅惑

※掲載は出品者番号順です。

鈴木 則之	漆研出加飾盛器
杉山 純美	刻(4枚組)
深野 怜	南風
藤森 京子	日々
乙坂 明生	心音
清水 智子	春彩
関口 緑	暁の海
伊藤 周作	Dragon stem
近藤 純子	連なり
渡辺 稔浩	風に乗って一翔IIー
fu-ka	BORN II
中井 昌子	藤花吹墨花入
眞貝 竜一	クイシンボウ
荒井明日葉	白と黒の心(2枚組)
佐藤 一彦	猛狂波
植草 稔	流麗
金井 裕子	雨上がり
勝 京子	rising III
佐藤 明子	時空への階段
北原ふみ子	想
大島 弥生	煌香(2個組)
津守 秀憲	たゆたう
井田 未来	秋葵 いちじく
藤田貴世美	東日本大震災によせて「能 藤戸」 罪なくして殺された庶民の憤りを政治の非情社会の不合理にあえぐ底辺の人間の怨みを訴える
狩野サキエ	藍糸ゆれて
梅田 千晶	花紋様漆革器
渡邊 貴子	春に生まれた
小野 真由	根差す
塚越 哲史	凜
大塚 国男	彩色花器「花ひらく」
生頼美砂恵	和(5個組)
小林 忠生	オーロラ
古川 いずみ	朝露
五月女 智子	HANA
加藤 雅章	染付草花文大皿
吉井 こころ	たゆたう
斎藤 千穂	Symphony一奏で・響けー

書

池上 恵峰	明け方の風
只野 洋子	灘池道中
池田 知之	赤壁(田辺碧堂)
三谷 嶽雨	李白詩五言古詩
眞坂 裕子	百人一首
池田佐和子	百人首
馬場 富耀	柴舟のうた
木下 清華	与謝野晶子二首
内掘 雪芳	漢詩
黒川 鶴翠	周致堯詩
重田 鶴耀	杜甫詩
森崎 愛芳	吳文泰詩
渡部 祥優	董儒詩
富岡 真華	唐詩選「送薛大赴安陸」
藤倉 汀雪	一花開五葉
小笛 総翠	吳蘭雪詩
鶴岡 慎舟	白雲高嵯峨
高木 香葉	春日大風感懷
向後 瑛舟	遺興
松田 栖舟	獻県懷古
吉永 幽径	感懷雜詩
佐藤 清紫	白水道中
横山 聖水	智者君抛我
中山 壽香	看客舞刀
上村 泊舟	澤畔
吉川 理芳	寒山詩
橋本 紫柳	題沈秀君抱書図
井上 春苑	菜根譚之一節
豊田 紫英	香紙切臨書
棧敷 東煌	清心
伊藤 湘理	雲
山田 華映	時竟夕澄霽・・・
佐久間茜湘	ひまわり
下元 原祁	半嶺通佳氣中峯繞瑞烟
北原 納美	宮沢賢治の詩から
高木 昌子	萩野卓司の詩 高原

岩崎貴代恵	靴が鳴る
新井 青谿	李澄詩
小松 公子	山里は
松村 玲香	五言二句
吉田 杏匠	百人一首
伏見 花海	金槐集
木幡 翠風	希望
高倉 裕子	みやび
中山 杏竹	山吹
瀧谷 杏子	三輪山
斎藤 杏茜	夢
松野 威子	花野
斎藤 史子	晶子のうた
平林 幸子	心(源氏)
坂東由美子	白秋の歌
水川 芳竹	踰越
中澤 春雪	和歌三首
山田 栄恵	和歌三首
伊東 光石	銀泉山
大木 明子	小名浜港の赤灯台
北村 蝶月	月光
松田 紀子	四万十川の舟母船
山本 清子	日守菜穂子の詩
竹内めぐみ	黄色い街
竹内絵里子	まちのあかねのトルファンの風
福永富砂子	在ルⅡ
石井 久美	日守菜穂子の詩 真夏の戦慄
川崎 純子	宵祭り
日守 鍊	いのちの森
小林 千幸	野外音楽堂のコンサートの夜
本間 琴秀	讃歌
平船 清流	柳
馬場 虹苑	石川啄木の歌
上野 春海	佐渡の朱鷺よふたたび(自作)
柴本 華雪	白石一郎の海狼伝より
長井 黙庵	短歌(長島智恵子の歌)

※掲載は出品者番号順です。

福本 泰子	城井雨咲の詩 协奏曲
相馬 澄月	秋風の歌
河又世津子	うすものを
横山 弘子	臨書 小島切
加藤 美和	八月十五夜
水本 知葉	仏遺教経
佐々木永隆	夕風
小嶋 直子	緑の山
村上 湖翠	つのくに
薬科 良信	ほととぎす
武 啓茜	茜さす
阿部 馨月	梅の葉
蒲谷 雄一	尚朴
片岡 雪燐	高詠詩
野頭 荘雲	漢詩 呂潛詩
池田 荘春	山中春盡
木下 添泉	舟行卽事
神谷 聖庭	送人還京
紙崎 玉澣	趙志皋詩
瀧谷 荘江	下峠
鈴木 静耕	南還道中
小山 荘雪	春夜阻舟尤村渡華子携酒見訪
川上 麗有	王維詩
武田 瞳処	鄭谷詩
西澤 蒼海	劉基詩徐資生華山圖歌
片岡 巖山	答夏景瞻
前橋 成元	雜詩
川名 眇心	陶淵明詩
牛山 香流	題秦淮水榭
片岡 稲處	崔曙詩 九日登仙台呈劉明府容
神山 紅雲	閔麟嗣詩 空水閣
浦 堯秀	野望
浅野 堯慎	杜甫詩 月夜
飯田 容風	良寬の歌
泊 正純	清修如野鶴
根岸多江子	李東陽詩

土屋 景暉	奚濤詩
猪俣貴美枝	河景明詩
安地 翠石	李太白詩
松前 沙瑛	明清詩
小島 憲哉	虞翻「論書表」の一節
松本 宣正	魏仲先詩
大庭 晴籟	不繫之舟
平田 紫穂	王漁洋の詩
春木 環	水到渠成
藤谷 泰子	仁者寿
加藤 博純	吟風弄月
田草川雅子	旅
安部 大巖	琴調和暢

※掲載は出品者番号順です。

写真

小倉 敬夫	蒼穹
奥田 恭子	イタリア紀行2(3枚組)
北原 實	一本道
白崎 裕彦	ヤメテクレー!
塩田 洋子	幸せな時
長谷部忠徳	媚びる
鈴木喜三郎	静寂
たるみかずお	オッズ
庄司 精一	笑顔が一番
白崎 恭子	ガウディの森
金子 久隆	四万六千日の縁日(3枚組)
木所 栄一	残像(3枚組)
吉田 好臣	天空の競演
岸 賢司	追憶
宮坂 駿一	シート
宮坂 猛子	復興祈願(3枚組)
越智 正則	お二人さん健やかに!
伊藤 敏児	待ちぼうけ
小田柿雅彦	白河夜船
江頭 良弘	引水温む
伊藤 正一	白い迷路(3枚組)
土谷 尚雄	初雪(3枚組)
小山 仁	背に腹は
金親 敏雄	遊び心を楽しむ街(3枚組)
佐藤 吉一	干潮で姿現れる
西沢一比古	渚のエッティング(3枚組)
佐藤 忠	網繕う
清水 治弘	氷紋(3枚組)
藤橋 岳光	小雨に煙る春
三浦 隆典	横浜物語
佐藤あかね	何を考えているの?(3枚組)
小島 満男	黄昏
向田壽美子	味なやつ(2枚組)
内山 順子	セーヌに遊楽れて
落合 知子	ユキヒヨウ
井上 幸子	parisien(3枚組)

笹尾 敏子	男衆(3枚組)
小柳 朝明	白銀の嶺をモンブランへ
加藤 一郎	マサイの女
蒲 千鶴子	翔影
土屋 義昭	時空空間(3枚組)
土屋 忠夫	赤い実プレゼント(カラス、長元望♂)
藤木 武	シャッターチャンス
畠堀ひと美	胎動
漆原 利大	守護の形(3枚組)
多田 正司	雨の終戦記念日(3枚組)
久保 良一	猛火炎上(2枚組)
宮木沙知子	浮
商 家訓	“女”佳情警備&ハマのAKB48(2枚組)
栗原 茂	泥流
佐藤 健司	小さな駅
三浦 房子	ぬくもり(3枚組)
土屋 能大	ロマ(ジプシー)の子供(3枚組)
稻次 正知	雪衣

※掲載は出品者番号順です。

工芸

大賞《Endless flow》(荒姿寿)と準大賞《乾漆菊型食籠》(小野次雄)の2点、最後には、いわゆる決選投票で大賞を決めたが、じつは、いずれを大賞とするかで議論をかわした問題作。結果、準大賞となった小野氏の作品だが、単独で見れば、非常に高い完成度をもっており、その風格は充分、大賞に値したと思う。一方、染織作品は、全般的な傾向として大きさがあり見栄えもよいため、例年、工芸部門で上位の賞を得てきている。ならば今年の大賞は染織作品以外で、という意見もあった。そうした議論の末、結果として今回は、綿ビロードに赤黒2色の線でシルクスクリーンを施した荒氏の作品のほうを大賞に選んだ。荒氏の作品は、技術面でオリジナリティに富み、構成としても、創造的な要素が強い。そして、こういった要素は、他の多くの出品作品にも見られる共通の志向性である。他作品とも通じる要素を持ち、そのなかで優れたものを感じさせたという点が、荒氏の作品の強みであったと思う。

特選の《a beige vessel》(笹川健一)は、いったん吹いて膨らませたガラスを割り、のちに再構成した作品。その念入りな制作プロセスが、物語性を喚起させ、スケールの大きさを感じさせる。もう1点の特選《陵雲》(荒木貞年)は、形がよく整い釉調もみごとであったが、あきらかに別な作家の作品を思い起こさせる点が難。

奨励賞《月迷宮 - II》(村田真樹)は、触覚に訴える表面が、陶オブジェらしい魅力をたたえた佳作。《雨降る鼓動(3個組)》(河野千種)は物質感を抑え、《CACHALOT》(内田望)は私的な造形世界に徹して、それぞれに現代的な感覚を示す点が興味をそそる。《月光浴・眠り》(菊池保裕)は、高蒔絵の技法が、女性のヌードという題材を思いのほか引き立てて新鮮。技法と表現世界とが噛みあって、工芸的造形的魅力にひたることができる。

以上、入賞作について短く触れてきたが、次にそもそもの審査の経緯について。

今年度の応募総数は156名183作品で、昨年より13名12点の微増。この183作品すべてを対象に、各審査員が一人25票を持って一次審査を行った。この段階で票を得た作品が約70作品。これでは、昨年よりも入選作が10点以上減ってしまい、事務局側としてもそれは希望しないとのことだったので、再度5票ずつ投票。これにより、昨年並み

の入選作品82点を選出した。ちなみに、このうち35作品は1票の獲得で入選を決めている。

このうち、入賞作を決める審査。昨年は、一次審査での得票数をいったんリセットして賞審査を行ったが、今年は、審査員の過半数にあたる4票以上を獲得した作品のみで賞審査を行うこととした。ただし、得票は少ない作品のなかにも技法的に見るべきところがあるといった意見があり、3票以下の作品のなかから特に推薦のあった2作品を賞候補に引き上げて、18作品を対象に、大賞以下6賞8点の入賞作品を決める審査を行った。

審査の方法は、まず一人5票ずつの投票。ここで、冒頭に述べたとおり、高得票だった2作品を対象に、いわゆる決選投票を行い、大賞と準大賞を決定。以下、多数決で順次、入賞作品を決めて行き、先に記したとおりの結果を得ている。

最後に、審査員間でしばしば問題になったプレゼンテーションの質について、一言触れておきたい。台の大きさが合わない、といった単純な問題だけでなく、どう見ても作品本体とは雰囲気の異なる台座や額縁などが少なからず目について、審査員どうし首をひねったり、作品を氣の毒がったり・・・。目をつぶって入選・入賞に加えた作品も少なくなかったけれど、手間をかけているのに作品が台無しというのは、本当にうらめしい。

(富田 康子)

書

神奈川県は、全国でも有数の書道県である。従って、書の質的水準も高く書風も多彩さを誇っている。

今回、その県展の審査委員として選衡に携わることになった。この機会は私にとって大変光栄なことであり、有意義な体験となった。

さて、第47回神奈川県美術展の書の応募数は、213人、その内入選数は129点であった。昨年の応募数に比べて些か3点の減少であったが、書道を取り巻く今日の厳しい社会情勢のもとでは、これ位の微減は諒とすべきではないだろうか。

審査は、7人の審査委員によって進められたが、審査に先立って全作品を通して観察し、作品の傾向と上下の水準を確認した。審査方法は、各審査委員が1点から5点までの点数札を持ち、各作品に対して判定点数を提示し、高得点の作品順に仕分けした。これを昨年の入選数に準じて60.1%の入選率とし、今回は129点の入選作品が決まった。

次に受賞作品の選出に移ったが、賞の選考対象となった作品は、21得点以上の作32点とし、これを更に二度の審査を通じて厳選、8点の作品に絞った。これ等の作業を通して、優れた作品を選ぶことはもちろんではあるが、同系統である場合は機会均等の精神から、類型作品はより優秀作を残し、多様性を考慮するための選別が行われた。厳選の中、選ばれた8点の作品は、最終的に誤字、脱字などの見直しが行われたが、今回はそうした中で受賞作に思われる盲点が見つかった。それは近代詩書作品であったが、現代短歌や現代詩は著作権問題が発生するため、表記された作者の確認をしたところ、実はこの詞には曲がつけられており、詞の作者として書いてあったのは作曲者の名前であったことが判明した。出品者の錯覚であろうが、意欲的で斬新な作であつただけに選外となったのは誠に惜しまれたことであった。

県展の応募者には、日展、毎日書道展、読売書法展等の応募作家の出品があり、質が高められていることは嬉しいことであった。殊に受賞者の中には日展の入選常連者が居ることは、県展への関心の高さを窺うものとして喜ぶべきことである。

受賞作8点は、技法的に高い水準にあり、個性を發揮しているところが認められたものであろう。特に大賞・板越蒼龍の「秋興八首内三首」作は、沈着な筆致に何紹基の筆意を

乗せて質朴たる趣を窺わせている。準大賞・廣畠筑州の「龍鳳」作は、篆書を現代感溢れる構成美としながら、練達の書線を以て完成度の高い作とした。特選・堤智子「艶やかな七彩」銘のない筆致は屈託なく、作者の心情を吐露して十分である。特選・四壁透「寧生」篆刻作にしては悠揚とした刻法を見せて、実に趣深い作とした。布字の間が何とも可なり。奨励賞・下門芳子「月」疎密、緩急、行間の呼吸も申し分なく。情趣深い作とした。運筆も手慣れており、練達の人、県文具事務用品団体連合会賞・小畠翠石「源氏」大らかな筆致は品位を湛え、雅の世界を展開している。美術奨学会記念賞・島村秀芳「漢詩」密度の高い作ではあるが、見方によってはやや懐の狭さが気懸りではある。美術奨学会記念賞・鯉沼紫虹「鮑恂の詩」王鐸一岡本松堂と連なる書風を連想させて、安定度の高い作とした。

(麻生 泰久)

写真

この写真部門の締め切りが7月中旬と知ると、第47回県展が“震災以後”に明らかに存在していることを意識せざるを得ません。幸いにも心配された応募点数もほぼ昨年並み、わずかの減少に留まりました。ただ、どうしても応募者の皆さんに撮影、作品のチョイスの際に何らかの影響があったことを想像してしまいます。むろん過剰な思いで撮影や写真作品に対することを善しとしない応募者も多いはずですし、審査する側も目に曇りのないよう臨んだつもりです。

しかし第一回目の選をしているうちに、やはりどこかでそうした影響を微妙に感じことになります。撮影ジャンルにかかわらず、全体にあまりにも淡々とした印象の作品が多いのです。それらは「ちょっと元気がない」「スッと手が伸びる作品がない」「なにか窮屈な感じがする」と、抽象的な表現ながら、審査員からの声が聞かれました。「メッセージ性を持った作品が見当たらない」という鋭い指摘もありました。

一方ではそうした傾向は、全体に「心地よい」「優しい」肌合いの作品が多くいた、ということになるようです。事実、入選作品を選び終えた時点で、多くの審査員からそんな印象が洩れきました。予選の段階ではそれほど目にとまらなかった作品が、賞を決定する段階になって、じわじわと心に染み入ってくる……そんな写真の持つもう一つの側面に今回の審査で改めて思いを馳せることになりました。

大賞の「猛暑日」はまさにそのような作品でした。3枚組のそれぞれは、夏の暑い日の、何気ないシンプルなスケッチですが、これらが組になると、言葉にしにくい夏の空気感や、季節への郷愁を思い起こさせ、ジワリと心をふるわせます。連続はしていないけれど、まるで映画のひとコマひとつコマをつなげたようで、さらにストーリーが続くような物語性をも喚起する味わい深い3点でした。

準大賞の「私の好きなシャボン玉」は文句なしの傑作。あたかもシャボン玉と会話しているような猫のポーズが絶妙です。特選「Last Girl On Earth」はモノクロトーンの持つ力を十二分に生かして、おどろおどろしいイメージを造り上げて、強いインパクトを与えてくれました。同「生という怪物」は多分、アジアでのある種の儀式を撮影したものと思いますが、大胆なカメラアングルでドラマチックな効果をあげています。ただタイトルにはちょっとびっくりです。

同「はしゃぎすぎい・・・」はあえてアホらしいという褒め言葉で讀えましょう。この底抜けな明るさは癒してくれます。奨励賞「都市の相貌」はポスターか、自身の作品を再構成したものか、いずれにしても写真論・都市論的な試みに挑戦した実験的作品と受け止めました。美術奨学会記念賞「少女像」は美しい作品です。少女の丸みを帯びた肌の質感、あどけない唇の愛らしさがやわらかな光の中で心地よく伝わってきます。同「伊勢原お米づくり体験」はタイトルも写真も、何も飾らず気負わず、ズバリと描いた気持ちよい、潔い3枚組。ニコン賞「ひこばえ」の少女の物憂げなプロフィールは今回特に印象に残りました。花飾りがその雰囲気をさらに高めています。

今回は期せずして、20代の若い応募者が3人も入賞しました。“高齢化”と揶揄されたりもしますが、どのコンテストでもベテランが頑張り、その経験と実力が發揮されているのは事実です。ただそれでも若い応募者が少なすぎるような気もします。そうした意味でも、今回の結果は最後に新鮮な思いを与えてくれました。

(前田 利昭)



大賞

Endless flow ／ 荒 姿寿

綿 染織 198 × 216cm 3kg

[略歴]	1979	福島県生まれ
	2002	女子美術大学芸術学部工芸科 卒業
	2002.5月～02.7月	Brahma Tirta Sari工房 Batik 研修(ジョグジャカルタ・インドネシア)
	2002.9月～05.3月	福島県立大笹生養護学校 常勤講師
	2005.4月～08.3月	金沢卯辰山工芸工房 技術研修員
	2009～現在	女子美術大学芸術学部工芸科 非常勤講師
	2010～現在	女子美術大学大学院 美術研究科 工芸・染専攻 在籍中



準大賞

乾漆菊型食籠／小野 次雄

麻布 漆 漆芸 25.5 × 25.5 × 15.5cm

【略歴】 1932年 秋田県由利郡本荘町に生まれる
(現在・秋田県由利本荘市)
1950年 神奈川県鎌倉市雪ノ下
株式会社 鎌倉彫「博古堂」に入社
1955年 日本伝統工芸新作展初出品
1956年 日本伝統工芸展初出品
1992年 「博古堂」退職・自宅工房にて制作
2010年 神奈川県展出品
2011年 現在に至る
日本工芸会所属・正会員
伝統工芸神奈川研究会会員
さがみ工芸会会員



特選

凌雲／荒木 貞年

磁器 陶 41×84×11cm 5kg



特選

a beige vessel／ 笹川 健一

ガラス 32.5×32.5×41.5cm 9kg



奨励賞

月迷宮一II／村田 真樹
陶器 陶 20×60×60cm 40kg



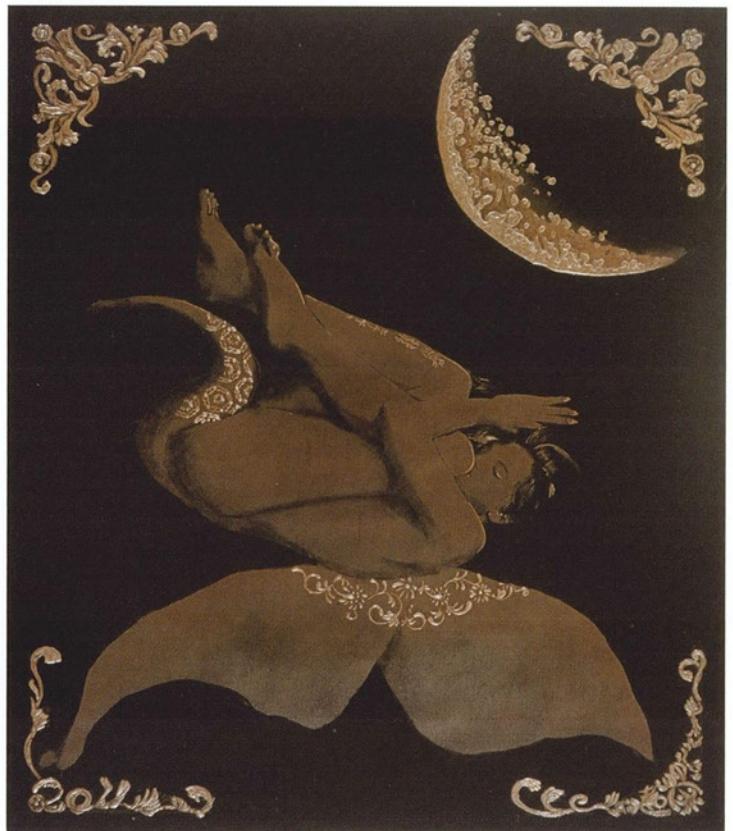
美術奨学会記念賞

CACHALOT／内田 望
鉄 真錠 15×17×50cm 6kg



美術奨学会記念賞

雨降る鼓動（3個組）／河野 千種
ホウケイ酸 ガラス



大塚学院賞

月光浴・眠り／菊池 保裕
パネル板 漆 銀 漆工蒔絵 40.9 × 31.8 × 1.55cm 3.45kg

玉露洞傷楓樹林平

山巫峽氣蕭森澗波
良禽失渴寒塞上風雲接

地陰叢菊雨開他日漫孤

并一繫故園心寒衣膚

催天力包帝城高急暮砧

夔有孤城落日斜

北牛望京華聽猿

猿實二三聲

淚奉使宦隨

月桂畫省香爐

達伏秋山

樓粉瑞隱悲笳

諸君至

簾羅月已映洲

前

盧荻花

牛家山郭靜朝暉

江橋草翠微宿漁人還

泛清波燕子故飛

衡

抗疏功名薄劉向傳愁

事遺同學少年多不贍

五陵衣馬自輕肥

杜少陵詩秋興八首錄音

辛卯立秋 苍龍

印

大賞

秋興八首内三首／板越 苍龍

61 × 182cm

[略歴] 1952年 新潟県生れ

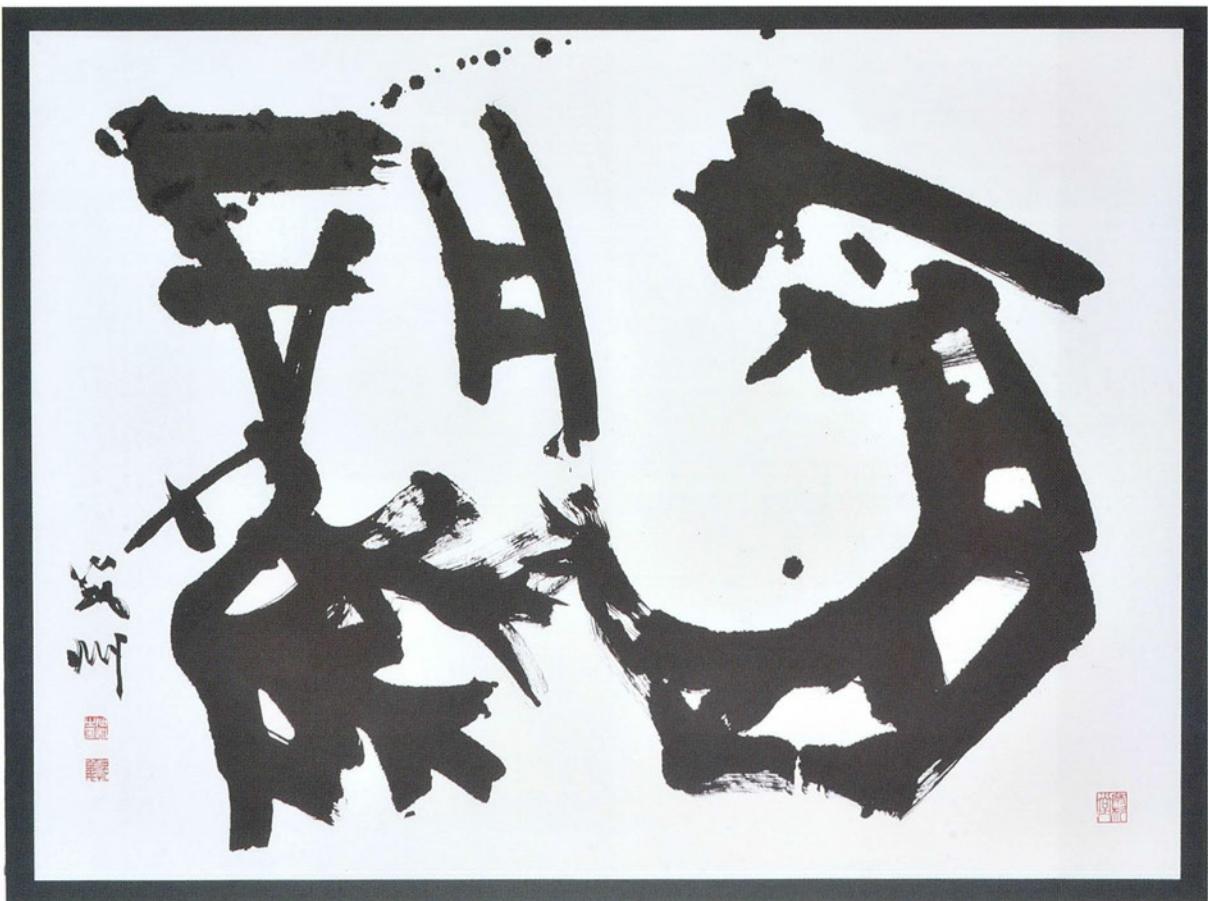
[現在] 竹青社 常任理事

神奈川県書家クラブ 会員

西安碑林国際臨書店 無鑑査会員

蒼芝文會 同人

丹羽 蒼處 師事



準大賞

龍鳳／廣畑 筑州
91×121cm

[略歴] 昭和23年 福岡県に生まれる
昭和59年 中国政府の招聘により中国訪問
(鄧少平・胡耀邦・王震氏にあう)

[受賞歴] 読売展 読売大賞(最高賞)受賞
日展 会友

[現在] 読売書法展常任理事
謙慎書道界常任理事
横社社会員



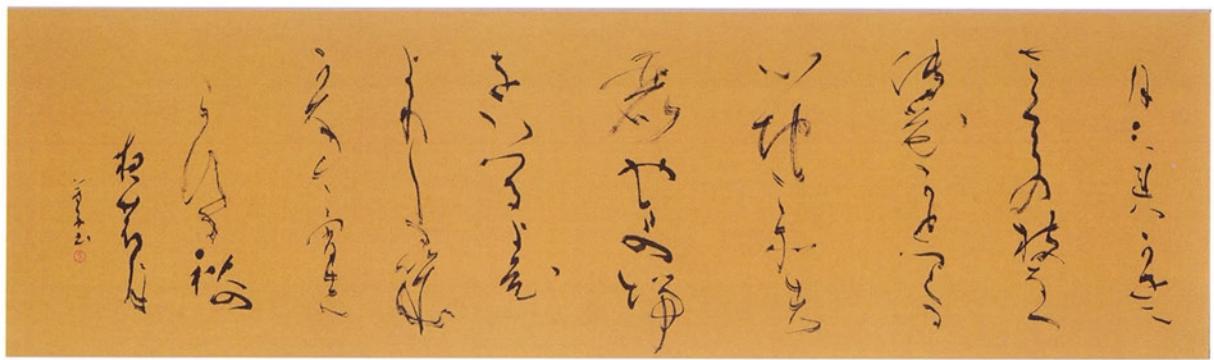
特選

寧生／四壁 透
39 × 30cm



特選

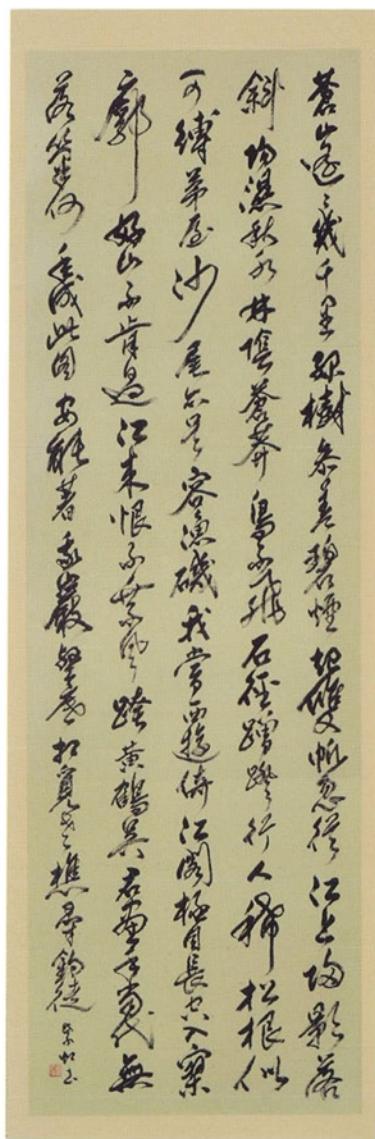
艶やかな七彩／堤 智子
182 × 61cm



獎励賞

月／下門 芳子

61 × 182cm



美術奨学会記念賞

鮑恂の詩／鯉沼 紫虹

182 × 61cm

梅舟遙草書

力破清溪急急流

子雲下海是是

賦詩詠琴酒酒

誰知人間空空仍

意猶唱盡似如歌

由領金樽一盡恩

與君枝上再復

隨高風急急流

管絃任其曲直忘

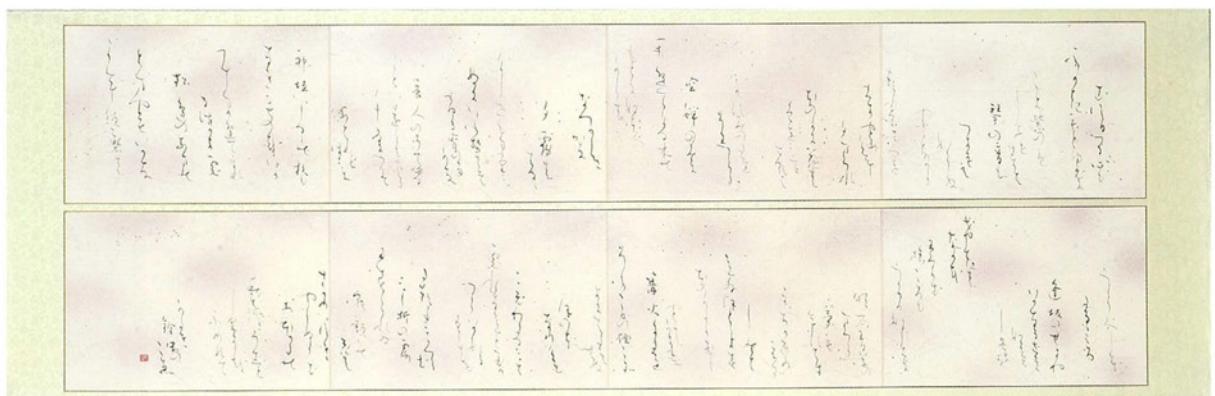
獨流清流儻憶山

陽舍懸於五色

夢蝶行



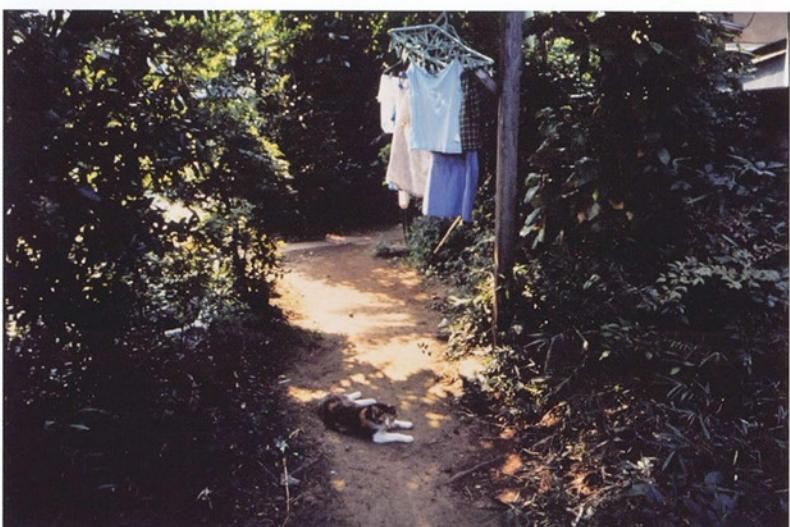
美術奨学会記念賞
漢詩／島村 秀芳
61×182cm



県文具事務用品団体連合会賞

源氏／小畑 翠石

61×182cm



大賞

猛暑日（3枚組）／長尾 宏

[略歴]
1942年 広島県に生まれる
2004年 第29回視点展 視点賞
2005年 第30回JPS展 銅賞
2005年 第41回神奈川県美術展 特選
2007年 第43回神奈川県美術展 特選

[現在]
横浜市に在住
写真サークル「窓」会員



準大賞

私の好きなシャボン玉／三村 信昭

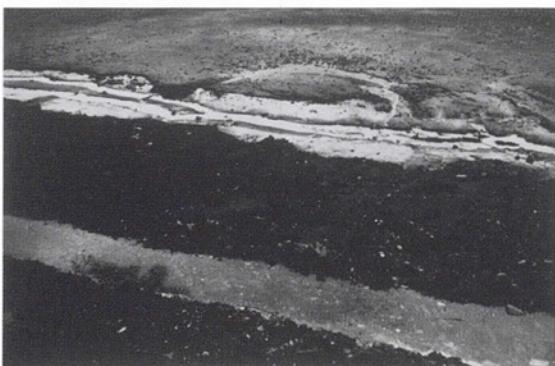
【略歴】 1942年 3月22日東京生まれ
1954年～ 写真を始める
1958年～ 本格的に作画活動を開始、藤井秀樹氏に師事
1960年～ プロ作家を目指す
古瀬浩資氏、八木原茂樹氏に師事
日本大学文理学部写真研究会委員長
2005年～ デジタル写真の基礎理論を学び、ジャンルにこだわらない作画活動を開始
2010年 デジタル写真の映像表現の可能性について追究
2011年 「全日本写真連盟」に入会

【入賞歴】 2009年 湘南ひらつか七夕まつり写真コンテスト 入選
2010年 JPA公募展 入選
神奈川県美術展 特選
「アサヒカメラ」誌月例 入選5点・「日本カメラ」誌月例 入選2点
2011年 JPA公募展 奨励賞



特選

生という怪物（3枚組）／安藤 航



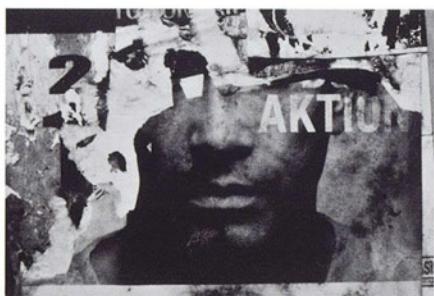
特選

Last Girl On Earth（3枚組）／大濱 秀太



特選

はしゃぎすぎい・・・／伊藤 千夏



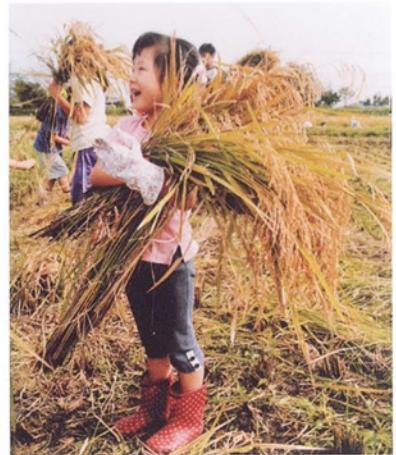
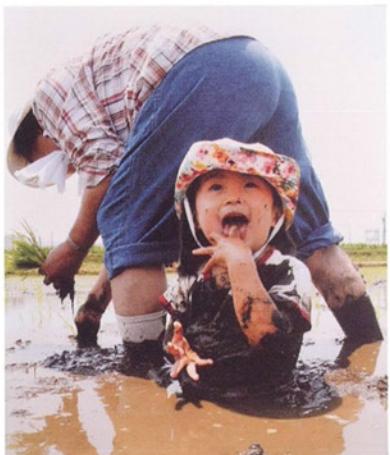
奨励賞

都市の相貌（3枚組）／佐藤 智彦

写真



美術奨学会記念賞
少女像／竹野 芳美



美術奨学会記念賞
伊勢原お米づくり体験（3枚組）／竜崎 浩



ニコン賞
ひこばえ／栗栖佐保子

出品点数一覧表

部門	平面	立体	1期展小計	工芸	書	写真	2期展小計	合計
人数	258人	56人	314人	156人	213人	207人	576人	890人
	(76)	(15)	(91)	(80)	(129)	(63)	(272)	(363)
点数	356点	62点	418点	183点	213点	728点	1124点	1542点
	(76)	(15)	(91)	(82)	(129)	(111)	(322)	(413)

※()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画	第16回 55年度 和久井 Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画	第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第3回 42年度 堀内 治雄『坐る』彫刻	第18回 57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書
第5回 44年度 山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回 59年度 東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利圀『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真	第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵐『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー (フェリス女学院)』写真	第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書
第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句 (原石鼎)』書
第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回 63年度 三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画	第25回 平成元年度 セツ・スズキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『通かなる亜熱帯』工芸
第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回 52年度 井上 麦『黒の女-'77』彫刻	第28回 4年度 たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形	
第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋I, II』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	

第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『簞澤美明詩 菊』書	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晓雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2枚組)』写真
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝朓北楼』書 商 家訓『路傍の華 (3枚組)』写真
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域—群像Ⅰ』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネパール)』写真	第43回	19年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第33回	9年度	劍持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真	第44回	20年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海一つきうみー』工芸 茂住 菁邨『称薦』書 中山洋之助『将棋三昧 (3枚組)』写真
第34回	10年度	笛井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第45回	21年度	高橋 善一『Hornet II』平面立体 丸山 愛『striplay』工芸 松永 光鳳『三十六歌仙』書 永山 悅朗『記憶・パキスタン地震 (3枚組)』写真
第35回	11年度	川田 純子『BIO-PANORAMA』平面立体 斎藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稻葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真	第46回	22年度	菅原 有生『くさはらⅠ』平面立体 池田 節子『藍遊び』工芸 二瓶 祥舟『夜行』書 漆原 利大『追憶 (3枚組)』写真
第36回	12年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラバゴス)』写真	第47回	23年度	古井 彩夏『Continual zone』平面立体 荒 姿寿『Endless flow』工芸 板越 蒼龍『秋興八首内三首』書 長尾 宏『猛暑日 (3枚組)』写真
第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私 1.2.3. (NUDE)』写真			
第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 柄木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I ~ V』写真			
第39回	15年度	井上 達也『植勢Ⅱ』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても…』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真			

第47回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成23年9月7日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 酒井 忠康

副委員長 林 義亮

委員

林 敬二 大矢十四彦 内田あぐり 本江 邦夫

北澤 憲昭 水沢 勉 富田 康子 佐野登志子

川口 流坡 石川 芳雲 和田 久士 内山 英明

山崎 威司 中村 英二

審査員

平面立体

磯見 輝夫 井上 雅之 大矢十四彦 北澤 憲昭

斎藤 典彦 寺内 曜子 水沢 勉

工芸

池本 一三 勝 孝 佐野 登志子 芝山 吉邦

田口 義明 富田 康子 渡邊 三奈子

書

麻生 泰久 石川 芳雲 今江美登里 尾崎 洋子

清水 六穂 丹羽 蒼處 船本 芳雲

写真

上野 修 内山 英明 江成 常夫 熊切 圭介

前田 利昭 山田 信次 和田 久士



有隣堂

画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店(4F) TEL.(045) 261-1231

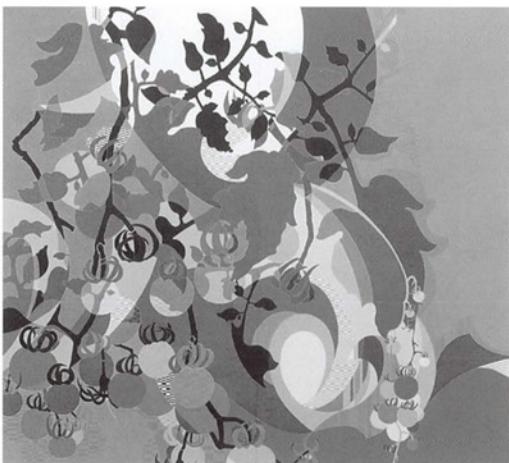
■厚木店(4F) TEL.(046) 223-4111

■藤沢店(フジサワ名店ビル4F) TEL.(0466) 26-1411

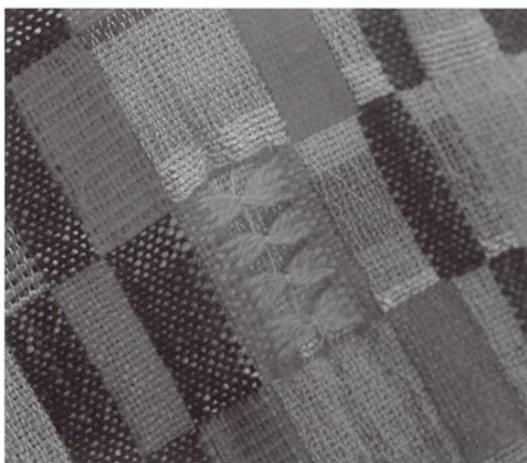
※藤沢店は書道用品のみ取り扱っております。

布の未来を創る

山口摂華
第50回記念 現代工芸美術展 『トマトマト』



大滝郁美
平成22年度Ⅱ部 ウィービングデザイン科



資料・願書無料送呈

学校(授業)見学 平日随時受付

学校説明会等
6~3月 各月1回実施

○入学願書受付

社会人入学 9/1 ~ 3/31
学校推薦入学 10/1 ~ 1/31
自己推薦入学 11/1 ~ 3/31
一般入学 11/1 ~ 3/31

◆ 学科構成 ◆

きもの総合科 (昼2年 30名)

- ・きもの技術コース
- ・きもの染織コース
- ・きものスタイリストコース
- ・舞台衣裳コース

デザイン総合科 (昼2年 40名)

- ・テキスタイルデザインコース
- ・工芸染織コース

テキスタイル科 (夜2年 30名)

国際情報処理科 (昼2年 30名)



大塚きもの・テキスタイル 専門学校

(旧)大塚末子きもの学院、大塚テキスタイルデザイン専門学校、大塚情報処理専門学校
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-1-27 ☎03(6278)9361 FAX 03(6681)2714
URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp
ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k/>

eco noge は、野毛印刷が推進する
環境保護をテーマとした
活動および事業展開です。



たいせつなものを もっとたいせつに。

例えば、情報に命を吹きこむということ、
例えば、個人情報をたいせつに扱うということ、
例えば、環境にやさしい印刷をするということ。
私たちに求められるたいせつなこと、たいせつなものを、
もっともっとたいせつに。
創業以来60余年の実績を誇る印刷事業をベースに
常に時代のニーズへ対応する野毛印刷は、
さまざまなメディアを駆使して、
情報の新しい価値を創造します。

GREEN PRINTING JAPAN



F-010006/F-010007
営業企画本部／福浦工場

当社営業企画本部・福浦工場は
グリーンプリント認定工場に
認定されました。

水を使わず、水を汚さない
環境にやさしい
水なし印刷を採用しています。



地域貢献企業
認定番号02123001

横浜市 CSR マネジメント・システム規格
「横浜型地域貢献企業」の
最上位認定を取得しました。



水を使わず、水を汚さない
環境にやさしい
水なし印刷を採用しています。



16190075(04)

当社は個人情報を保護する企業を示す
「プライバシーマーク」使用の
許諾事業者として認定されています。

プライバシーマーク 使用認定
ISO 14001 9001 認証取得
野毛印刷
営業企画本部／横浜市南区新川町 1-2 ☎232-0027
(045) 252-2511
<http://www.noge.co.jp>

たいせつなものを もっとたいせつに。

チャレンジ
25

The 47th Kanagawa Art Exhibition 2011
第47回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業制作第一課内

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL. 045-662-5901(代)

写真撮影：(株) 菊屋写真工房

印刷：(株) 野毛印刷社

発行：2011年9月7日



VOC
FREE

